

令和4年度 学校評価

埼玉大学教育学部附属特別支援学校

学校自己評価				保護者アンケート		学校関係者評価	次年度への改善策
評価観点	評価項目	目標達成度※	主な意見	評価項目	目標達成度※	学校評議員会兼学校評価懇話会 2月20日実施（参加4名）	
教育支援の充実	①将来を見据え、自立と社会参加に向けた <u>系統的な学習指導の充実</u>	77% B	「合わせた指導」の評価に関する研究や教育課程検討委員会の検討によって深まっている。 今後も連携して系統的な教育、学習指導について検討していくことが必要。	将来を見据え、わが子の自立と社会参加に向けた学習指導を行っている	A	社会参加に向けた実践など素晴らしい学校。公民館を利用した学びをさらにすすめ連携していきたい。	※児童生徒の声を反映できる機会を設定する。
教育環境づくり	②安全で安心して生活できる教育環境づくり	89% B	ヒヤリハットを継続し安全確保につとめたい。 緊急時の情報伝達や改修工事中の避難経路など見直したい。	子供たちが安全で安心して学べる教育環境づくりに取り組んでいる	A	特記無し	非常時の対応について改修工事に伴う環境の変化に備える。
授業実践力の向上	③各教員の専門的指導力の向上	81% B	他県の研究協議会などが再開し多くの教員が校外の研修に参加できた。 研究の時間や研修機会の確保、臨床研究センターの成果周知に期待。	教員は専門的指導力の向上に向けて努力している	A	保護者からも専門性の高さについて評価が高い。教員は自信をもって自己評価してほしい。	臨床研究センターとの連携・活用で専門性の向上をはかる。
特別支援教育の推進	④保護者と連携した特別支援教育の推進	84% B	保護者学習プログラムを継続したい。 下校時サポート利用に伴い、自力通学の協力について不安がある	地域や家庭と連携して特別支援教育を推進している	A	「おやじバンド」「保護者学習プログラム」非常によい取組。保護者連携には ICT 活用求められている時代。	保護者学習プログラムを継続する。ICT の更なる活用で保護者・PTA との連携を効率化する。
勤務の効率化	⑤教育効果とバランスのとれた働き方改革の推進	81% B	ICT 活用や会議時間などの効率化が進んでいる。 教育効果と働き方改革のバランスは難しく、効果は下がっていないか。	-	-	改革が進み長時間勤務が解消されている。ICT で逆に業務が増えないようにしてもらいたい。また、電子情報の管理に留意してほしい。	会議や行事、教育計画等の整理改善を継続し、時間内で教育効果をあげる工夫をする。
大学連携	「共生・ダイバーシティ社会」の担い手づくり	-	「こころとからだの学習」などの保健教育実践のほか、附属学校園との連携、大学教員との連携を進めて実施できた。	「共生・ダイバーシティ社会」の担い手づくりに取り組んでいる	A	特記無し	大学及び附属学校園との連携を生かした教育実践・研究活動を推進する。

A…達成度9割以上 B…達成度7割以上 C…達成度5割以上 D…達成度3割以上 E…達成度3割未満 ※アンケートA評価とB評価の合計

令和4年度全体総括

- 【教育支援】 新設した教育課程課程検討委員会を中心とした検討及び学校研究を通して、教育課程や各教科等を合わせた指導・学習評価について教員の意識が高まっている
- 【教育環境】 実際の災害時を想定した訓練を通して各教員が主体的に取り組むことができた。改修工事が続くためさらに各自の意識向上が求められる。
- 【実践力向上】 他県の研究協議会などへの参加や研修報告を通して多くの教員が多様な教育や研究に触れることができた。研究協議会を実施し授業づくりの実践力が高まった。
- 【特別支援教育の推進】 保護者学習プログラムが好評だった。今年度導入した下校時のサポート利用は保護者との連携のもと実施できている。
- 【勤務の効率化】 働き方改革は進んできている。各種行事が再開する中で、勤務の効率化からくる教育効果の維持や継続は課題となっている。
- 【大学連携】 「共生・ダイバーシティ社会の担い手づくり」のテーマは知的障害のある子供たちの社会参加をすすめる本校の教育活動に沿うものである。